



# 人権教育だより

京丹後市立大宮中学校

令和5年11月15日

No.14



第三回目の授業は、「性自認」について行いました。

YouTube「HOME 広島ニュース」の動画「【トランスジェンダー】中学校一年生の決意～男の子として生きたい～」「【ノンバイナリー】自分を男女の枠にあてはめずに生きる人たち」を観ました。同世代のドキュメントを通して、性自認の多様性について考えました。全校生徒の感想を交流します。

実際に困っている人の動画を観て、名前や心の性は男の子なのに生まれた性（女の子）で扱われてきて、制服や部活でたくさん悩んでいることが分かった。先生や友達にカミングアウトしたときに、ありのままを受け入れられていたので、私も一人ひとりの個性や魅力を大切にしたいと思ったし、大切にできる人になりたいと思った。

呼び方も、どう呼べばいいのかを相手と話して教えてもらうなど、相手のことを知ろうとする姿勢をみせたい。 (2年)

今回の授業では、トランスジェンダーやどちらの性別かが明確じゃない人は、女だからこう・男だからこうといった偏見に苦しんでいるということが分かった。

少数派とはいえ、心の性と体の性が違ったり、どちらの性でもなかったりする人はいるので、そんな人たちも自分らしく楽しい生活を送るためには、自分の偏った性別に対する考え方を押しつけるのではなく、その人たちがありのままに自分らしく生きられる生活を尊重して、様々な性別の人が自分らしく生活できる社会を作っていけないといけないなと考えた。 (1年)

髪が短いと「男の子かと思った」とか「男の子になりたいの?」と言われるけど、そういうわけではないし『男の子っぽい見た目』でいたいだけ。偏見でモノを言ったり、判断されたりするのはいやだなと思った。他にも同じ思いをしている人がいるのなら助けてあげたい。

昔みたいな『男は男らしく』『女は女らしく』という考えをなくしてほしい。区別したり差別したり、同じ人間なのに生き方や表し方が違うだけで否定するのはひどいと思った。

しんどいと感じたことを我慢せず、自分に合った生き方を誰もがができる世界がいいな。 (1年)

性別は男性と女性の2種類だけという固定観念を捨てて、多様な性が存在していることを知り、それに対応する力をつけることが必要だと思う。「あなたは男だからこっち」「あなたは女だからこっち」ではなく「あなたはどっちがいい?」と本人の意志に耳を傾けることが大切。

今はまだ異性愛が一般的だと思われるけど、これから徐々に多様性を認めていっていつか誰を好きになっても否定されることなく、誰もが自分らしくいられる社会になってほしい。そのためにまずは自分が性の多様性について理解を深めたい。 (3年)

今の自分は制服もトイレも部活や更衣室も分かれていて当たり前だと思っていたことに、今日の学習を通して気付くことができました。最近では生活の中でも多目的トイレなどが使えるものも増えていて、このまま増えていけばいいなと思った。

でも様々な性への理解がない人は世の中にもっとたくさんいるし、私もまだ少ししかわかっていないから、こういう学習が広がって様々な性が当たり前になってほしい。また、私も周りの人たちに伝えて少しでも力になればいいな。 (3年)

その人の本当の思いを知るには、直接話してみないと分からないから、見た目で判断することは絶対にしたくない。もし自分が「あなたは怖い」と見た目で決めつけられたら悲しいし、「私のことを知ってから言ってよ!」と思うので、今回の事は特に自分事としてとらえたい。

自分のつけている、他の人に対しての色メガネをはずし、誰もが気持ちのよい社会になったら嬉しい。 (1年)

性別を見た目だけで判断することは、相手によっては嫌な気持ちにさせてしまうということを知った。「男の子だから」「女の子だから」という性別で分けることは、自分はイヤだから、もっと多様性が広がったらいいなと思った。

誰かに批判されて、なりたい自分になれないまま過ごすのではなく、自分の人生だから好きな自分で生きていきたいと思った。 (3年)

世の中には、体は女性・心は男性で、男性として生きたいという気持ちの人や、男でも女でもない人もいることを改めて知った。そういう人たちは、自分が思うより気を遣った生活をしていると思った。トイレや着替え、制服、修学旅行など、考えなければいけない生活を送っている人もいることを知り、ユニバーサルデザインやいろんな性別の人も使えるトイレがどれだけ必要かを知った。

(2年)

性別関係なく関わっていく必要があると思います。もともとは同じ人間なので「男性だから～」 「女性だから～」と接し方を変えるのも、よく考えてみればよくないと思いました。それが好きじゃない人もいるし、実際にしたくないと思って過ごしている人もいるから、決めつけてしまうことはよくないと思いました。私もこれから気をつけていきたいです。 (1年)

普段当たり前に使っている誰かを呼ぶときの「くん」とか「ちゃん」や自分が違和感を持たずして来ている服、自分の中で認識していることが誰かにとっては嫌な思いをさせてしまう材料になりかねないと分かった。そういう些細なことが大きな考え方のズレとなって生きにくくしてしまうことはしたくないので、違う視点で物事を考えることもしなければいけないと思った。 (3年)

男だから・女だからと決めつけられているのは良くないと思った。この世の中の多くのものは、多数派に合わせられて作られているから良くないと思った。命の重さは変わらない。少数派が差別される社会は変えなければいけないと思った、多数派も少数派も同じ重さの人権だから、両方を尊重しなければならない。

(1年)

